



2016年ヴィンテージー 生産地方別レポート

アール(Ahr) : 卓越した品質

寒い春とあまりにもじめじめした初夏のために、成長サイクルと開花は比較的遅れて始まりました。しかし、暑い夏と9月、10月の収穫時には理想的な気候のおかげで、予想外に進行して品質は追いつき、感動的な成分値を有する素晴らしいフリューブルグンダー（ピノ・ブレコス）とシュペートブルグンダー（ピノ・ノワール）のぶどうを手摘みで収穫できました。幸運なことに、シーズン初めにぶどう栽培家が丹精込めて耕作したことで、ベト病による大きな損失は免れました。結果として、収穫量は推定3万9,000hlとなりました。シュペートブルグンダーは色が濃く、リッチで、熟してよくまとまったタンニンがあります。これらは優れたヴィンテージの特徴である品質です。

バーデン (Baden) : 終わりよければすべてよし

バーデンに、遂に素晴らしいニュースが舞い込みました。ワインの品質はもちろん、およそ125万hlという収穫量は、例年を大きく超えています。8月と9月の非常に天気のよい乾いた晩夏の天候の恩恵により、特に9月後半にぶどうは一気に熟しました。小春日和は10月まで続き、ぶどうは冷涼な夜のおかげもあって、最高の状態となりました。それゆえ、非常に高品質な果実味の高いみずみずしいワインが、バーデンの2016年ヴィンテージの特徴です。

春の頃は、このような良い結果を到底予想できませんでした。遅れてきた発芽の後、雨模様の天気が6月まで続き、ベト病を発生させました。しかし何カ所かでの深刻な作物被害が記録されたにとどまり、全体としてはベト病に付随する被害はそれほどではありませんでした。水分が十分に供給されたため、ぶどうは暑い夏に最適に熟すことができました。7月の気温は一時的に37°Cになりました。全体として、ワイン生産者にとっては非常に大きな労働力を必要とする年でしたが、ワイン愛好家にとってはうれしい結末となりました。

フランケン(Franken) : 不安続きの末の有終の美

2016年のぶどう栽培は、厳しい暑さと日照りが顕著だった前年とは違った意味で、ワイン生産者は困難な年でした。決定的な特徴は5月、6月の大量の降雨でした。これは栽培者にベト病の蔓延というかつてない困難をもたらしました。ベト病は有機栽培を駆使する多くの生産地に影響を与え、収穫の損失は最大で100%となりました。さらに事態が悪いことに、4月の終わりと5月30日には遅霜があり、マイン川三角地帯の南部の数箇所で大規模な雹被害がありました。8月は非常に暑く乾燥していたため、若いぶどう樹のために灌漑が必要なほどでした。

その後 9 月末の完璧な秋の気候のもと、ミュラー・トゥルガウとバッフスの収穫を開始し、10 月には、ピノ品種とジルヴァーナを収穫しました。果実は素晴らしい状態でした。

このような非常に忙しい期間の末に、収穫が比較的ゆっくりとしたペースで進むとは、栽培家も予測はできませんでしたが、これは待望の褒美でした。「不安続きの末の有終の美」と、フランケンワイン生産者協会のアルトゥル・シュタインマン会長は熱意を込めて話していました。

推定収穫量はおよそ 50 万 hℓ で、これは前年を超え、シュペートブルグンダーのモストの平均糖度は最大 92 エク スレに達しています。プレディカーツワインの割合は推定 65% でした。バランスがよくフルーティで、調和のとれた構成、フレッシュな酸と低いアルコール度と予想され、まさに消費者が好むワインです。

ヘッシッシェ・ベルクシュトラッセ (Hessische Bergstrasse): 油断のならない状況の解消

今年の初め、ベルクシュトラッセの栽培者は雨を喜んでいました。広範囲にわたる水不足を解消してくれたためです。しかしその後、5 月、6 月と雨は降り続け、さまざまな問題、特にベト病の恐れが生じました。さらに、一部エリアは 4 月末の霜の結果、最大 50% が被害に遭いました。6 月の雨は開花の助けとならず、8 月の熱波は日焼けによる被害とその後の収穫減を招きました。待望の夏の後、9 月半ばによりやく収穫が始まり、10 月末まで非常にゆったりとしたペースで進みました。よってぶどうは最適な成熟ができ、果実味の高い、エレガントな白ワインと、力強く濃い色あいの赤ワインで特徴づけられる 2016 年ヴィンテージが誕生しました。推定収穫量は 3 万 hℓ で、これは去年の数字よりわずかに少ないですが、平年並みです。

ミッテルライン (Mittelrhein) : 非常に混沌とした状況

今年の中頃までは、ミッテルラインのワイン生産者はとても不安げな気分で見上げていました。雨は非常に多く降りましたが、気温が平年並みでした。ぶどう樹を保護することが、とても重要でした。栽培家は聖霊降臨日 (2016 年は 5 月 15 日) までに克服し、回復は 7 月半ばから収穫期までの非常に良好な気候の恩恵を受け、特にリースリングのような晩熟タイプの品種で顕著でした。開花は遅れ、ゆっくりと進行しました。6 月 24 日、雹の被害がオーバーヴェセル地区とデルホーフエン地区ならびに、カウブとドルシャイトのライン川右岸のぶどう畑で発生しました。よく晴れた晩夏の気候のおかげで、ぶどうは非常に均一に熟し、最後まで健全でした。しかしながら単収が h a あたり 10 hℓ から 110 hℓ とさまざまで、モストの糖度も栽培者により大きく変動しています。それでも、総収穫量は推定 2 万 9,000 hℓ で、平年より 17% 増となりました。若いワインはフレッシュな酸、豊かなアロマ、明白な果実の特性を誇っています。

モーゼル (Mosel) : 気まぐれな天候にもかかわらず平均的な収量

霜から日焼け、豪雨から干魃までと、2016 年の天候にはあらゆるものがありました。両極端な天候にもかかわらず、今年は全体として質・量ともに、予想よりも遙かによいものとなりました。収穫量はおよそ 75 万 hℓ と、2015 年からわずか 1% 下回った程度でした。他の地域と同

様に、気候による影響は小さな地域内ですら大きく異なります。「樹にほとんどぶどうが残っていない列があるかと思えば、わずか 150m離れたところでは、ぎっしり詰まったぶどうを収穫できたりする」と、モーゼルワインのアンスガル・シュミッツ CEO はザール地域の栽培者を引き合いに出して説明しました。開花が始まったのは 6 月中旬で、7 月にまでくい込みました。秋の好天が到来してやっと、ぶどうは安穏と熟成することができました。安定した天候のおかげで、栽培者は高品質の果実をゆっくりと、選別しながら収穫できました。モーゼルにおける新ヴィンテージの若いワインの特徴は、穏やかな酸味と豊かなアロマです。

ナーエ(Nahe) : 羨望の秋

ナーエのワイン生産者は聖霊降臨日(2016年は5月15日)から続くじめじめした春以降、収穫に関して最悪を危惧していました。べト病の恐れも広がりました。幸いなことに、遅ればせながら気候の変化が起きて、一部では予想を下回った収量もあるものの、最終的には栽培者に素晴らしいヴィンテージをもたらしました。暑い夏と絵に描いたような完璧な秋、つまりほとんど雨のない4週間の晴天により、ぶどうは十分に熟すことができました。ドルンフェルダー、ショイレーベ、ミュラー・トゥルガウ、ピノなどの品種は、稀に見る健全な果実を生み出し、モストの糖度は最大 100エクスレに達しました。しかし、収量と品質はともにところにより大きく変動したため、栽培者は羨望の秋と呼ぶようになりました。収穫量は推定 30 万hlで、前年よりわずかに少ないですが、ここ 10年の平均並みです。リースリングは特に、穏やかな秋の気温と冷涼な夜の恩恵を受け、アロマは完璧なまでに高まりました。2016年ヴィンテージは、卓越したプレディカーツワインになる力があると、ナーエの栽培者は確信しています。

ファルツ(Pfalz) : 驚きに次ぐ驚き！

物事はときに、想像していたものと違うようになることがあります。この格言は特に、ファルツの極めて優れたヴィンテージに当てはまります。じめじめした春は、まったく異なった結実を示唆していました。熟練の栽培者ですら、5月、6月にこれほど多くの雨を経験したことはありませんでした。それに伴いべト病の恐れも高くなりました。一部では、花房が完全にしおれてしまいました。ある畑、特に有機栽培された生産地は、ところによって収量が大幅に減少することを強いられました。しかしその後、暑い7月と天気のよい乾燥した晩夏が到来し、その後9月には絵に描いたような完璧な小春日和へと続きました。大部分の収穫は9月の第三週に始まり、安定した、ゆったりとしたペースで進みました。11月までには、稀に見る健全な、完璧なまでに熟した果実となることはいまでもありません。特に、ソーヴィニオン・ブラン、ショイレーベ、ムスカテラーのようなアロマティック品種は、若いワインとして非常に香り高く、バランスのとれたものであることを示しています。ピノ品種やリースリングも好天の恩恵を受け、専門家の見解では、非常にクラシックなファルツワイン、つまり果実味が高く、エレガントでフレッシュ、穏やかなアルコール度のワインとなりました。また今年は、高貴な甘口に銘醸ワインの年でもあり、アイスヴァインの望みもあります。収穫量は、平年のおよそ 220 万hlより少し減りました。ファルツワイン機構の名誉農学者エドウィン・シュランク会長は、「今年ほどワイン生産者がぶどうの生育期に、ひどく驚かされた年はこれまでありませんでした」と締めくくりました。

ラインガウ(Rheingau) : 神経をすり減らす戦い

降雨は基本的には歓迎すべきものでした。これは、ラインガウの栽培者が1月と2月に考えていたことで、特に前年が非常に暑く、乾燥していたからでした。雨は貯水池が満たされているときは悪くありません。しかし、6月に平年より多く雨が3ヶ月間降り続けると何が起きるのでしょうか？これは度が過ぎています。ぶどう栽培家にとって、これは蔓延、とりわけベト病の蔓延に対する、疲労困憊し神経をすり減らす戦いの始まりの前触れでした。地表が非常に湿っているため、ぶどう畑に乗り入れてぶどう樹を手入れすることは必ずしも可能ではありませんでした。こんな状況にもかかわらず、ぶどうは概ね順調に生育しました。リースリングの熟成は8月20日に始まりました。これはここ30年の平均とまったく同じです。ぶどうの大半は、10月の初旬から中旬にかけて収穫されました。夏の終わりから秋にかけて極めて好天であったため、ぶどうは最適な熟成度になり、モストも十分な糖度となりました。果粒の酸と糖度は完璧なバランスで、エレガントな構成をもつ、フルーティでバランスのとれたリースリングを約束するものでした。収穫量は推定20万hℓで、前年と同レベルですが、ここ10年の平均と比べると10%ほど下回っていました。

ラインヘッセン(Rheinhessen) : 幸運こそすべて

「9月の夏」はラインヘッセンのぶどう栽培家の記憶に長くとどまるでしょう。秋は降り注ぐ日光と平均より3.8℃高い気温で、不利な状況をほんの少し穴埋めしてくれました。これは今年前半の難しい気候状況を考えるとほとんど達成不能に思われたものです。5月に雨が通常より3回多く降り、しかもこれはただでさえ非常に寒かった春が終わった後のことでした。結果として、ぶどうの生育は夏まで約2週間遅れとなり、さらにじめじめした状態のせいで、ぶどう樹の病気の恐れが高まりました。たとえば一部では、ぬかるんだ土壌のために車を使えなかった、など、ぶどう畑の状態により、重要な耕作を断念せざる得ないということもありました。7月に入り変化が起き、概ね乾燥した暑い気候が9月まで続き、8月の最高気温は35℃でした。収穫は早生の品種については9月初めから取りかかり、9月中旬から大部分の収穫を開始しました。春に病気が蔓延したことにより収穫が最大100%と大きく減少してしまった栽培地を除いて、モストの糖度も申し分なく、全体として非常に健全、十分に熟したぶどうがもたらされるでしょう。収穫量は推定250万hℓで、平年をわずかに下回る程度でした。全体的に果実味が高く、みずみずしい、前年よりアルコール度数がわずかに低いワインが予想されます。リースリングは特に理想的な秋の恩恵を受け、はっきりとしたアロマを示しています。専門家によると、この優れたアロマティックな成熟が、2016年ヴィンテージの秘密だそうです。生育

ザーレ・ウンストルート(Saale-Unstrut) : すべてのもの

ドイツ最北のワイン産地において、5月の晴れた青空の下、発芽が始まり、6月中旬から同じように問題なく開花が始まりました。夏が到来するやいなや、温度計が30℃ほどに上昇しました。7月も同じくらい暑く、乾燥していましたが、フライブルク近郊の地域は7月17日に雹を伴う嵐に襲われました。暑さと湿度により、病気の恐れが多

少懸念されました。ワイン生産者は房の通気性と乾燥を高めるために、正確なキャノピー・マネジメント（ぶどうの枝葉の管理）でこれに対抗しました。8月は高温で、一部では雹を伴う嵐の被害もありました。そしてついに9月20日、収穫は静かな乾燥した秋の気候のもと始まりました。その後、10月には雨が降り気温が低下しましたが、果実は秋の間、非常に健全な状態を保ちました。これにより、エントリーレベルと銘醸ワインの両分野における、穏やかな酸をもちひとときわフルーティなフルボディのワインの成分が形作られました。収穫量は推定5万5,000hlで、前年と同レベルです。しかし、品質は2015年より一段上だと、ワイン生産者協会のジークフリート・ボーイ会長は説明しています。若いワインはこのヴィンテージの日照を反映しています。2016年はワイン愛好家を喜ばせるでしょう。

ザクセン(Sachsen) : 雨にも柔軟に対応

収穫はぶどう栽培家から「多くの柔軟性」を必要としたと、ザクセン農業委員会は報告しています。これはもちろん天候によるものです。難題がありました。春は比較的乾燥していました。その後6月になると、非常にじめじめしてきて、トラミネールのぶどう畑など花ぶるいの被害やベト病の恐れが生じました。成育にとってより好ましかったのは、8月から9月にかけての真夏の気温でしたが、8月末の極端な暑さはぶどうにとってストレスになってしまいました。早生品種の収穫は9月10日に始まり、非常に良質の果実でしたが、一部で果実を食べるミバエが発生しました。幸いなことに、涼しく湿った10月の温度低下により、被害が大きくなることが防げました。ぶどう畑で根気よく耕作することで、栽培家は全体として非常に健全な収穫を得ることができました。収穫量も推定2万7,500hlほどで、「ついに私たちは再び、ザクセンで良質なヴィンテージを2年連続でもたらした」と、ワイン生産者協会のクリストフ・ライナー会長は意気揚々と語っています。また高貴な甘口カテゴリに属する非常に高品質の銘醸品も生まれるでしょう。

ヴュルテンベルク(Wuerttemberg) : 挑戦～巧みに克服

ドイツ南西部の他の地域と同様に、ヴュルテンベルクの春も非常にじめじめしていて、きめ細かなぶどうの保護が必要とされました。その後、徐々に暑く乾燥してきて、アコロンとドルンフェルダールのぶどうは8月中旬までにはすでに十分に色づきました。他の品種、たとえばリースリングや、ミュラー・トゥルガウ、ケルナー、トロリンガー、シュバルツリースリング（ピノ・ムニエ）も、優れた生理学的熟成度に達しました。収穫は9月24日から10月末までおおむね乾燥した条件下で着実に進行しました。唯一の中断は、10月21日の豪雨でした。専門家の意見では、ヴュルテンベルクの栽培家は今年、非常に良質なワインを造り出し、それは突出したヴィンテージである2015年に匹敵するだろうとのこと。収穫量は110万hlで平年より少し多く、絵に描いたような完璧なヴィンテージの2015年よりもさらに少し多くなりました。若いワインは、はっきりとした品種の特徴をもったフルーティなワインです。

2016年10月20日からの国内のモストの推定

	2016年(10月20日現在)	2015年	直近10年の平均	2016/2015年の変動率	~2016年長期平均
	hℓ	hℓ	hℓ	%	%
アール	39	39	40	0	-3
ミッテルライン	35	29	30	21	171
モーゼル	750	760	809	-1	-7
ナーエ	300	314	331	-4	-9
ラインハッセン	2.450.000	2.495.000	2.563.000	-2	-4
ファルツ	2.220.000	2.267.000	2.221.000	-2	0
ラインガウ	200	202	222	-1	-10
ハッッシェ・ベルクシュトラーセ	30	31	30	-3	0
フランケン	500	420	446	19	12
ヴェルテンベルク	1.100.000	1.078.000	1.069.000	2	3
バーデン	1.300.000	1.159.000	1.224.000	12	6
ザーレ・ウンストルート	53	53	43	0	23
ザクセン	31	25	20	24	55
全体	9.008.000	8.873.000	9.048.000	2	0

出典：ドイツ・ワイン・インスティテュート (DWI)

データ：Deutscher Weinbauverband (DWV)

※本データはドイツ・ワイン・インスティテュートに帰属します。

本テキストを無断で転載、コピー等で複製することは著作権法の罰則の対象となります。

